

学校評価(共通項目)評価書

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員が目指す学校像に向けて教職員それぞれの経験と能力、個性を生かし、創意工夫と実践により、学校運営に参画し生徒の様子や学習状況に成果を表すことができた。</li> <li>個別最適な学びと協働的な学びの充実のため研鑽に努める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育目標すべての項目に対して肯定的な意見が9割を占めており、学校の取組が高く評価されている。</li> <li>学力や生活面で個別対応が必要な生徒への支援が充実できるとよい。</li> </ul>
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 <small>(※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)</small>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の生活アンケートや毎学期の二者三者面談の実施により早期発見、早期対応に努め、組織的な相談体制が確立できている。</li> <li>毎月の安全点検や危険箇所の未然の把握と計画的な修繕の実施により、事故を未然に防ぐ体制ができている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ等アンケートを地道に実施しており、学校の危機管理体制を9割近い保護者が高く評価しており、教職員の評価のみ低いことが意識が高いことの表れだと考える。</li> </ul>
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	他教科の取組にも目を向ける機会を設け、成果と課題を共有し、柔軟な発想により指導方法の改善に努めた。基礎基本の確実な定着と学ぶ意欲を高める工夫が実践できた。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>県学調の数値から高い水準で学力を身に付けていることがわかる。</li> <li>家庭学習の充実、基礎学力の定着が今後の課題である。</li> </ul>
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	埼玉県学力・学習状況調査など諸調査の分析に基づいて生徒の実態に応じた学力向上プランを策定し、生徒を引き付ける授業づくりを目指し、成果を得ることができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒や職員の評価から生徒の興味関心を高める工夫と学力の定着を図るための見届けが行われている。</li> </ul>
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	「学校のきまり」を昨年に引き続き今年度も見直し、全職員の共通理解のもと指導を徹底した。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>県学力学習状況調査や生徒の評価から「規律ある態度」が着実に育成されている。</li> <li>学年が上がることに清掃、美化へ意識が低下していることが今後の課題。</li> </ul>
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	個性の尊重や相互理解、集団との関わり方について教職員の研修を行い、生徒一人一人にとって充実した学校生活となる集団づくりを行った。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が意識して取り組んでいることが、職員の評価や実際の授業の様子からうかがえる。健全な人権意識のもと、規律ある教育活動が行われている。</li> </ul>
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	コロナ禍の影響が軽減し、保健体育授業では、工夫できる幅も広がった。引き続き考える機会を大切に授業を展開し、意欲的に運動に取り組ませることができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が積極的に取り組んでいる一方で2,3学年では、コロナ禍の影響がみられる。</li> </ul>
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	授業内容の見直しや導入の工夫、ICT機器を活用した興味関心を高める工夫により、主体的に取り組む姿勢を育て、体力向上につなげることができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育的活動がコロナ禍の抑制から解放されたことによる成果が表れている。</li> <li>具体的な向上策が家庭に伝わりにくい。</li> </ul>
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	父母と先生の会が中心となり、コロナ期以前の活動を順次再開していった。引き続き学校だよりやホームページ、学校配信メールなどを活用し、日々の学校生活の様子を積極的に発信し、共有できるよう努めた。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事以外でも親親隊や校外パトロールなど定期的に保護者や地域と協働した取組を続けており、ふれあいまつりは市内最大規模で実施しているなど地域との交流が積極的に行われている。</li> <li>学校運営協議会の発足によりさらに協働した取組に期待する。</li> </ul>
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	校外パトロールは時期と時間を見直し、生徒の下校に合わせて実施した。あいさつ運動は例年通り継続して実施し、通学路安全点検も全保護者に依頼し情報収集に努めた。父母と先生の会、民生委員・児童委員、学校評議員、スクールガードの協力を得て生徒の見守り体制が維持できた。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の9割以上が高く評価している。</li> <li>保護者、地域ともさらに協力できる機会を増やしていきたい。</li> </ul>

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満